

平成28年熊本地震における熊本市の対応

令和4年（2022年）5月



平成28年熊本地震における熊本市の対応

令和4年（2022年）5月



熊本市の概要

「熊本城マラソン」の様子



<熊本市概略>

- | | |
|---------|-----------|
| 平成8年4月 | 中核市へ移行 |
| 平成19年 | 熊本城築城400年 |
| 平成23年3月 | 九州新幹線全線開業 |
| 平成24年4月 | 政令指定都市へ移行 |
| 平成28年4月 | 熊本地震 |

令和4年4月1日現在

人口：736,329人

世帯数：330,690世帯

I 平成28年熊本地震の概要

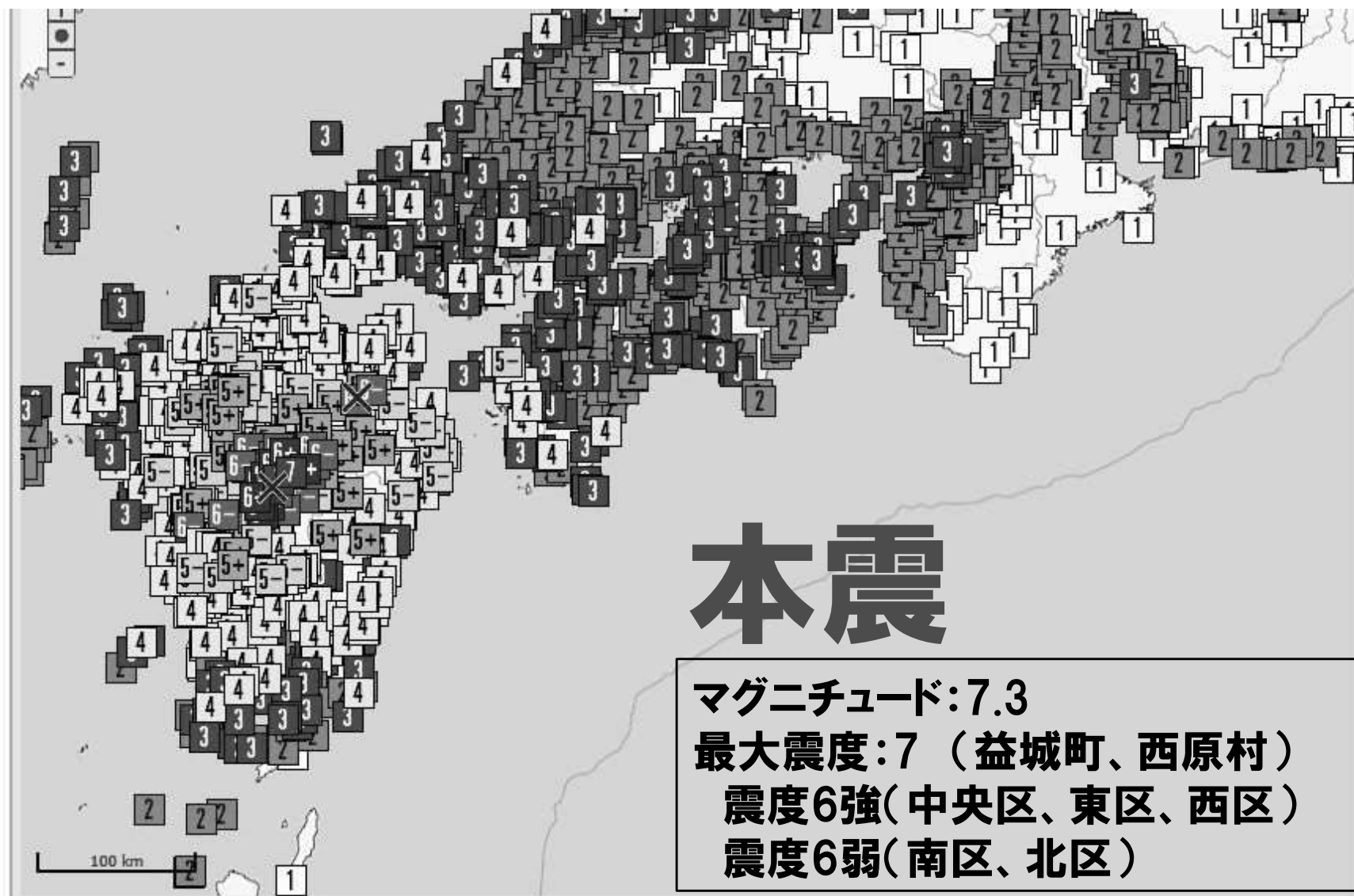
2016.4.14 21:26



× 震央 7 震度7 6+ 震度6強 6- 震度6弱 5+ 震度5強 5- 震度5弱
4 震度4 3 震度3 2 震度2 1 震度1

(気象庁ホームページより)

2016.4.16 1:25

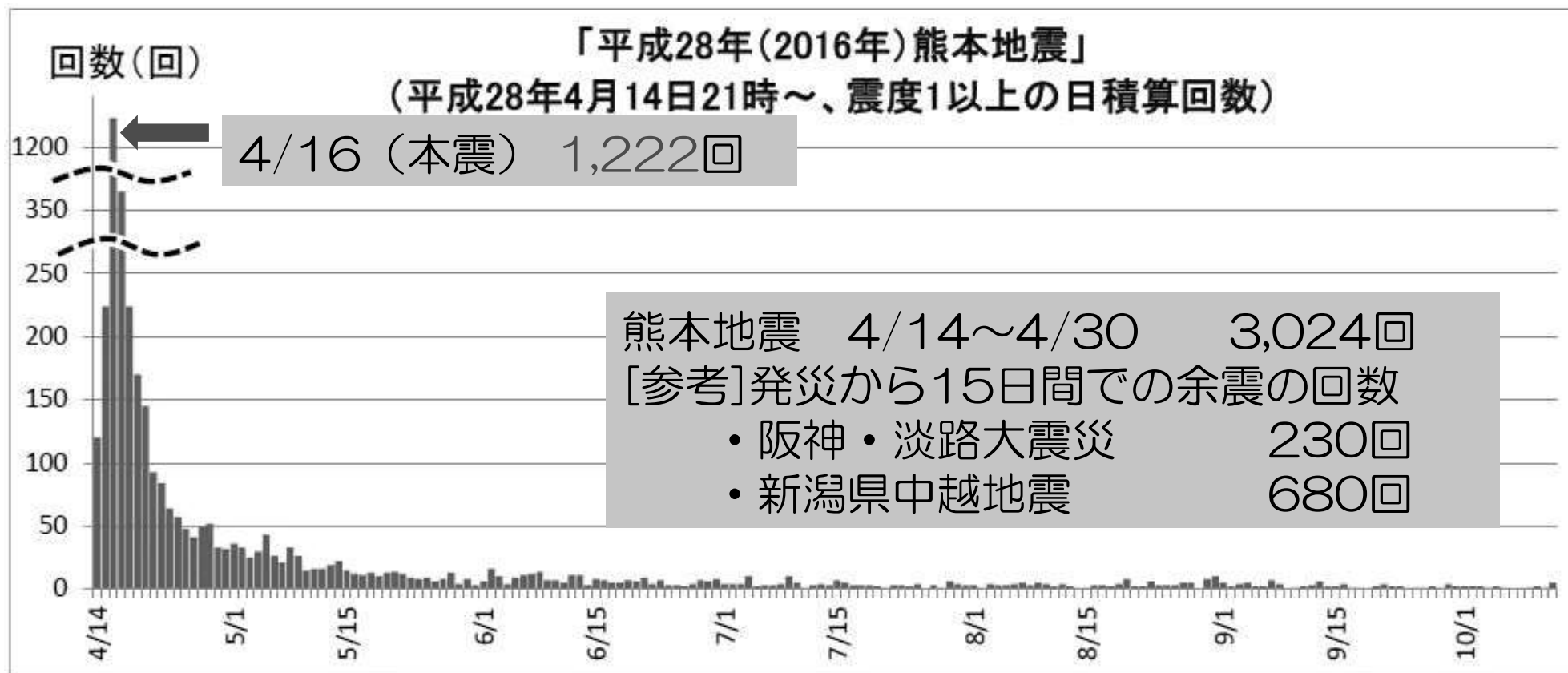


× 震央 7 震度7 6+ 震度6強 6- 震度6弱 5+ 震度5強 5- 震度5弱
4 震度4 3 震度3 2 震度2 1 震度1

(気象庁ホームページより)

熊本地震の特徴

- 震度7の地震が立て続けに2回発生(観測史上初)
- 一連の地震で震度6弱以上の地震が7回発生(観測史上初)
- 余震の発生回数(累計)は、**4,484回**(平成30年4月30日現在 気象庁HPより)



被害状況（人的被害・住家被害・宅地被害）

●人的被害（令和3年（2021年）10月31日現在）

死者：88人（直接死6人 関連死82人）
重傷者：772人（重度の障がい者6人を含む）

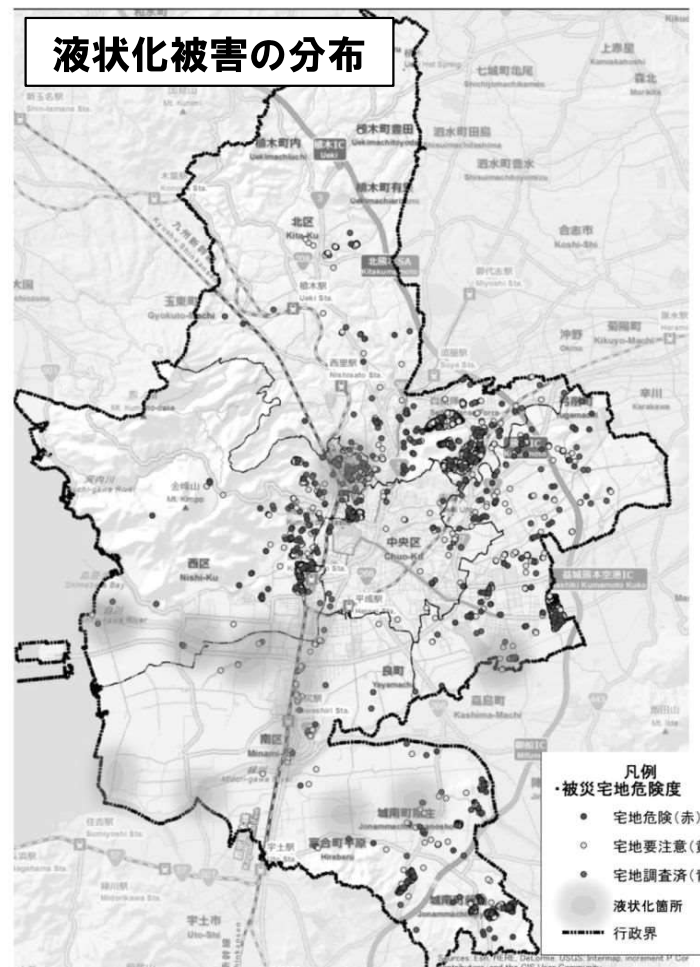
●住家被害（り災証明書交付件数）（令和3年（2021年）10月31日現在）

全壊：5,764件
大規模半壊：8,972件
半壊：38,964件
一部損壊：82,983件
損壊なし：10件
計：136,693件

●宅地被害の状況（推計）

（造成宅地変状箇所内の箇所を含む）

がけ崩れ被害戸数：約4,300戸
液状化被害戸数：約2,900戸
計：約7,200戸



被害状況(ライフラインの状況・被害写真)

- ◆水道：最大約326,000世帯が断水（4月16日時点）⇒4月30日通水完了
- ◆電気：約278,400戸停電（4月16日2時時点）⇒4月18日午後復旧
- ◆ガス：約100,900戸供給停止（4月16日1時25分時点）⇒4月30日供給開始

住宅（東区）



健軍商店街



熊本城



事務所（中央区）



I 平成28年熊本地震の概要

被害額（試算）

平成28年8月31日時点

区分	主な内容	被害額
1 医療・福祉施設	医療施設、介護・福祉施設等	455.5 億円
2 水道施設	水道施設、工業用水道等	26.6 億円
3 公共土木施設	河川、道路橋りょう、公園、下水道	244.2 億円
4 農林水産関係	農林水産関係施設、農作物、農地等	187.5 億円
5 文教施設	学校、社会教育施設等	302.2 億円
6 その他の公共建築物等	庁舎、市営住宅、産業施設、市電等	78.2 億円
7 廃棄物処理	廃棄物処理施設、廃棄物処理費用	443.1 億円
8 商工関係	製造業、商業、宿泊業（建物被害）	1,720.0 億円
9 文化財	国・県・市指定文化財、未指定文化財	784.1 億円
10 建築物（住宅関係）	住家、家財、宅地	12,121.5 億円
計		16,362.9 億円

- 項目ごとに市域内の市所管施設等（※1）及び民間の被害額を試算したもの。
- 平成28年8月31日時点の推計であり、今後金額には変動がある。（「4 農林水産関係」は9月8日時点の県への報告額）
- 「5 文教施設」については、市域内の大学、県立高校を除く。
- 「8 商工関係」の被害額は、サンプル調査に基づき推計したもの。
- 「10 建築物（住宅関係）」の被害額は、被災家屋数等から推計したもの。
- 市域内の公共交通機関（市電除く）、電気、ガス、高速道路等被害額は現時点で未調査。

（※1）一部国・県の所管施設が含まれる。

Ⅱ 発災直後の対応

市役所の混乱



- ほぼ全職員が初めて経験する事態に動揺
- 職員の安否・参集状況もよくわからない状況
- 殺到する電話対応でパンク状態
- 役に立たない対応マニュアル

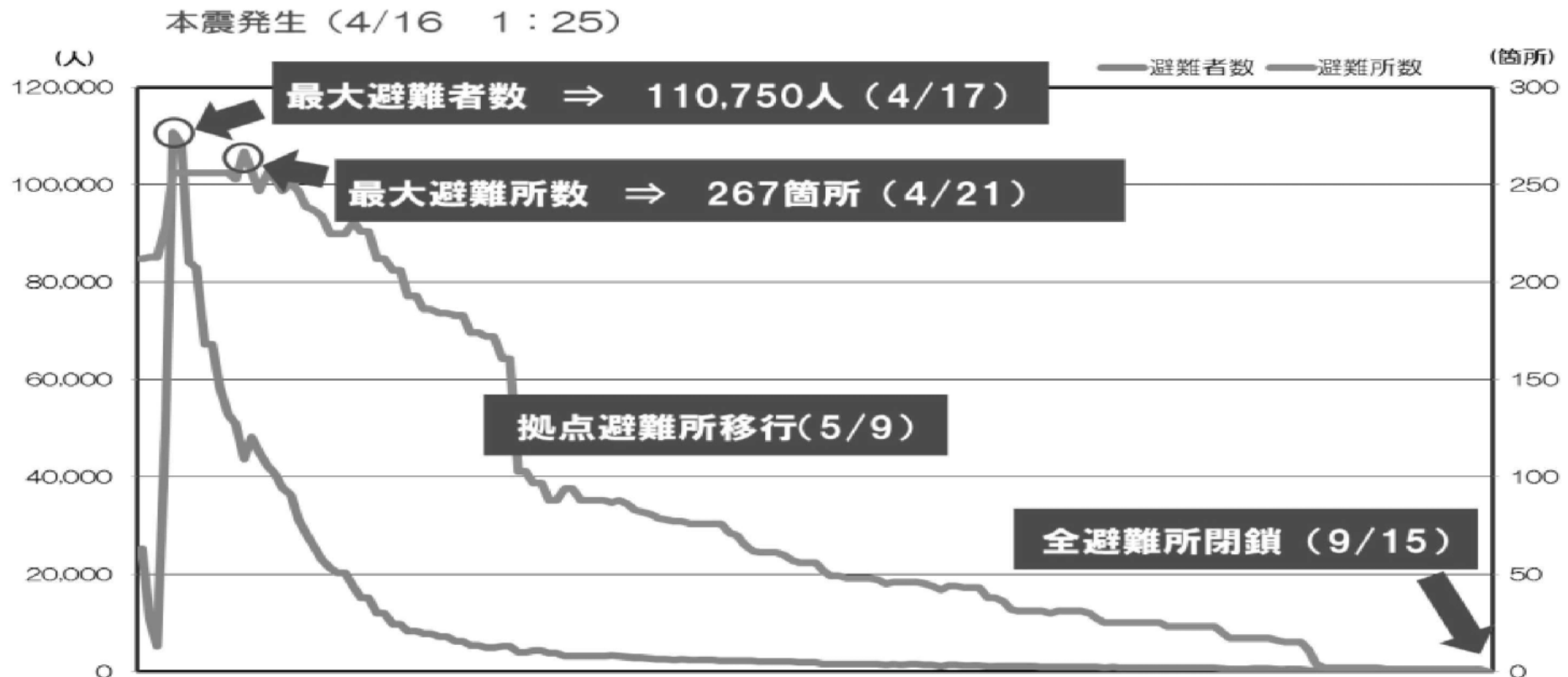
思うようにいかない被災状況の情報収集・共有



避難者であふれる避難所

11万人を超える避難者

- 約7人に1人が避難（市人口74万人）
- 地域防災計画の想定では5万人
- 前震時避難者数2万5千人から大幅増
→前震時に食料や水を使い切っていた



余震が続く中、車中泊避難者が続出

想定外の避難者数による避難所不足や、頻繁な余震の恐怖に多くの避難者が車中泊やテント泊へ

→車中泊避難者の把握は困難を極める



混乱する避難所運営

- 職員の日替り交代制による情報共有や避難者との信頼関係不足
- 多様な問題、トラブル対応に24時間対応する職員の疲弊
- 職員のスキルも対応もバラバラな避難所運営
- 職員頼りの避難所運営形態



そんな中、全国からいただいた温かい支援

物資支援



給水活動



一方で、支援を受ける側の体制(受援体制)が整っていなかった

巡回保健指導



災害ガレキの片付け

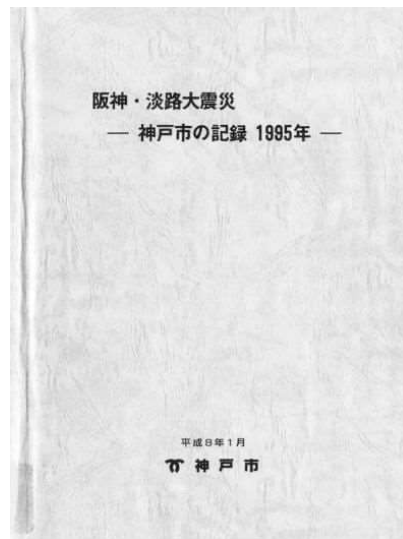


瓦の片付け



震災対応の記憶をつなぐ「震災記録誌」

今回の災害対応で参考になったのは、
神戸市・仙台市など被災自治体の経験



本市でも、今回の震災での貴重な
経験を次世代に伝承するため、
「熊本市震災記録誌」を発刊

